

**(仮称)伊勢市地域公共交通計画(案)に関する
パブリックコメント実施結果の概要について**

1 パブリック・コメント実施の概要

(1) 意見募集期間

令和7年12月18日(木)～令和8年1月12日(月祝)

(2) 意見の周知方法

- ・広報いせ(1月1日号)
- ・市ホームページ
- ・市行政チャンネル文字放送 等

(3) 閲覧場所(18か所)

- ・伊勢市役所(本館1階市民ホール、総務課、交通政策課)
- ・総合支所生活福祉課(二見・小俣・御菌)
- ・支所(神社、大湊、宮本、浜郷、豊浜、北浜、城田、四郷、沼木)
- ・伊勢図書館
- ・生涯学習センターいせトピア
- ・二見生涯学習センター

(4) 意見提出の対象者

伊勢市内に在住または通勤、通学している方など

(5) 意見募集の結果

意見者数 3人(5件)

(提出方法:持参、メール、オンラインフォーム)

2 意見内容及び市の考え

No.	意見対象箇所	意見内容（一部要約）	市の考え及び修正内容
1	17 ページ 3 伊勢市地域公共交通網形成計画（R2年3月改訂）の目標達成状況 近年の取組	伊勢市での自動運転バス試行を中止し、白紙に戻すことを求めます。まず、導入を急ぐ必要性が不明瞭であり、予算 7500 万円の使い道として優先度が低い点が挙げられます。自動運転バスの導入は雇用減少や税収減を招きます。さらに高額車体の購入、環境負荷、AI 安全性への懸念があり、運営主体の不透明性も問題です。物価高騰に対応した民生予算を優先すべきで、公聴会開催と市民意見の反映を求めます。	原案のとおりとします。 【理由】 近年の取組を説明するページであるため、現行のままとします。 自動運転バスの導入は、運転士不足が喫緊の課題である中、観光と生活の双方の路線を確保・維持していくために必要な事業であることから、国と県からの補助金を活用しながら、計画通り取組を推進していくこととします。
2	21 ページ 4 公共交通の目指す姿	21 頁に「バス利用者が減少し、運行の改善を検討する地域」(改善検討エリア)が示され、「新たな移動手段について検討」と書かれています。 これらの地域はバスの本数が少なく極めて不便な状況が続いています。隣接する町（玉城町、明和町、多気町、南伊勢町）ではデマンド方式の移動手段を導入し利便性を向上させていますが、伊勢市では都市計画税を特別に徴収しておきながら、なぜこんなに不便なのですか。「新たな移動手段」としてデマンド方式の早期導入を強く求めます。	原案のとおりとします。 【理由】 「新たな移動手段」の導入に関しては、当市の実情に即した交通サービス（デマンド方式の移動手段を含む）を慎重に選定し、住民の皆様にとってより便利で利用しやすい移動方法を提供できるよう、早期の実現に向けて取り組んでまいります。

3	21 ページ 4 公共交通の目指す姿	<p>汐合停留所から宇治山田駅への朝 7:07 の便が昨年廃止となったことにより、通勤利用が困難になった。現役世代の利便性向上のため、バス停やダイヤの改善が必要。かつて駅があった汐合は文化的に重要なエリアだが、廃線後バスが代替役を十分果たせておらず、観光や通勤需要を満たしていない。二見線の増便や路線の再構築、さらに光の街地区周辺において参宮線の駅新設を市が働きかけることで、通勤・通学、観光客、施設利用者も取り込んだ地域の活性化と、公共交通の利用促進が期待できる。</p>	<p>原案のとおりとします。</p> <p>【理由】 二見エリアは 21 頁に示す通り、「改善検討エリア」に指定しておりますので、現役世代の利便性向上や観光需要への対応も含め路線整備の改善を検討してまいります。 また、参宮線の駅新設については、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>
4	26 ページ 5 計画目標と実施事業	<p>26 頁に「次世代公共交通の導入」として、自動運転バス、連結バス、小型電気バスの導入に取り組むと記述しています。伊勢市は次世代公共交通の導入として自動運転バス等に取り組み、令和 7 年度には実証実験に 7,500 万円、車体購入に 9,000 万円を費やす計画です。一方、住民が利用するおかげバスや沼木バスの予算は年間 <u>1,619 万円</u> (※) と低額で、令和 12 年度まで据え置かれる予定です。このアンバランスな計画、公的資金の使い方には賛成できません。 計画の「次世代公共交通の導入」に懸かる部分は削除し、住民の足を確保する公的資金の投入を積極的に行い、便利にしてください。</p>	<p>原案のとおりとします。</p> <p>【理由】 自動運転バスの導入は、運転士不足が喫緊の課題である中、観光と生活の双方の路線を確保・維持していくために必要な事業であることから、国と県からの補助金を活用しながら、計画通り取組を推進していくこととします。</p> <p>(※) 公的資金投入額は市の支出額と国からの補助金額を合わせたもので、正しくは <u>1 億 6,192 万円</u> となります。</p>

5	26 ページ 5 計画目標と実施事業	26 頁に地理的な交通空白の定義について「本市ではバス停や駅から 300m 圏外」と記述していますが、この距離は健常者向けの基準であり、高齢者や病弱者にとっては平地であっても歩行に困難を感じる距離です。また、バスの便が 2 時間に 1 本程度では、非交通空白地域でも利便性が十分とはいえません。交通空白の定義を住民の実感に沿った基準に改め、もっと住民の意見を反映した表現にしてください。	基準に、「勾配や地形等の要因により、地元から要望があり、伊勢地域公共交通会議が交通空白地域と認める地域」を追加します。
---	-----------------------	---	---

3 意見募集結果による修正

下表のとおり。

該当頁	修正前	修正後	修正理由
26 最終行	本市ではバス停や駅から 300m 圏外となる地理的な交通空白と、	本市ではバス停や駅から 300m 圏外となる地域に加え、 <u>勾配や地形等の要因により、地元から要望があり、伊勢地域公共交通会議が交通空白地域と認める地域における地理的な交通空白と、</u>	下線部の追記